

## V202a すばる望遠鏡・観測提案書審査システム PRORES の開発

八木雅文 (国立天文台), 山野井瞳 (一橋大学), 竹田洋一, 今西昌俊, 吉田千枝 (国立天文台)

国立天文台ハワイ観測所では毎年春と秋にすばる望遠鏡の観測提案書の公募 (Call for Proposals) を行っている。観測提案の受付は共同利用開始当初は紙の郵送必須、2005年からE-mailベース(純電子投稿)に移行が行なわれ、2020年春季年会V201aで発表されたように、2011年以降は、すばる望遠鏡・観測提案書管理システム (Subaru Telescope Proposal Management System; ProMS) を通してウェブベースで行われるようになった。一方、提案されたプロポーザルの審査も紙の郵送からE-mailベースとなって行なわれてきたが、この審査プロセスもウェブベースのシステムに移行したい旨の要望があがっていた。我々は審査システムをウェブ化すべく2018年から検討を開始し、実際に開発担当者が割り当てられた2019年5月からすばる望遠鏡・観測提案書審査システム (PRORES; PROposal REfereeing System) として、設計開発を開始した。

PRORESが扱うプロポーザル審査は大きく分けて3つの段階、(a) 審査員への依頼、(b) 審査の入力および集計、(c) 審査結果の提案者への通知、に分けられる。PRORESでは(b)部分が最初に開発され、ダミーデータを用いて行なった関係者によるテストの結果を反映した後、2019年9-10月に行なわれたS20Aの審査で実際に運用された。この運用結果を踏まえた改良を加えつつ、新たに(a)部分を加えた構成で2019年3-4月のS20Bで利用された。本年会中に行なわれているS21A審査でもS20Bに改良を加えたバージョンが運用されている見込みである。本年度中の(c)部分の設計と実装も計画されている。

本発表ではPRORESの開発設計思想と実装方法や機器構成、および今後の課題や展望について述べる。